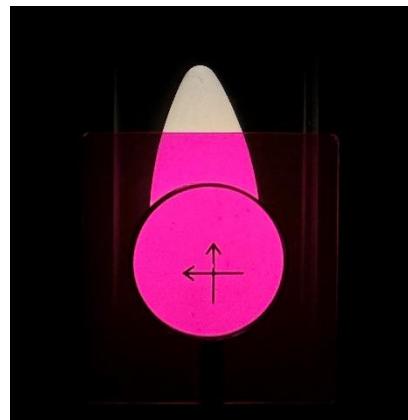
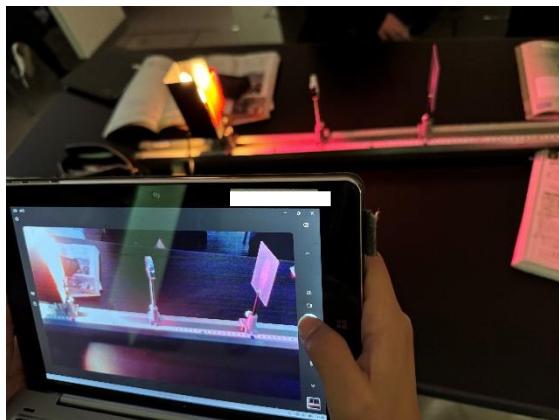


徳島県では、各学校における DX（デジタルトランスフォーメーション）による学び・指導の変革や一人一台端末の日常的・効果的な推進のために「徳島 ICT モデル」を策定しています。

徳島 ICT 活用モデルでは、ICT の活用の段階を S・A・M・R の 4 つの段階に分けて、個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実を目指しています。

現在は 3 つ目の段階である「M」段階の取組を増やしていくよう各校で推進しているところです。本校の「M」段階の実践例を紹介します。



(活用例) 1年生理科

单元名：光による現象 実験：凸レンズによってできる像

○ICT 活用場面

- 教師用タブレットを使用し、実験の説明を行いました。生徒が実験操作でわかりにくいところを、スクリーンで詳しく説明しました。班全体で実験の内容を理解し、スムーズに実験することができました。
- 班でタブレットを使い、実験結果をカメラ機能で撮影しました。班で考察を行う際に、撮影した画像を見ながら、物体とスクリーンの位置関係とできた像について、考えを共有することができました。

○生徒の感想

- 位置関係を見ながら考察することができた。撮影するのが難しかった。
- 意外ときれいに撮影できた。上下・左右逆向きを後から見返して考えることができた。
- 動画機能を使い、リアルタイムで実験の説明をしてくれたのでスムーズに実験できた。
- 普段使っている凸レンズのしくみがわかった。作図が難しかった。

○振り返り

普段の授業で ICT 機器を使って、教材の提示をするだけでなく、理科では、実験や観察にタブレットを使用しています。今回の授業では、タブレットで撮影した実験結果の画像をもとに、考察の場面で結果を振り返り、自分たちで主体的に考えを深めることができました。今後も、生徒一人一人がタブレット等の ICT 機器を使うことで、対話的な深い学びに繋がる授業を行っていきます。